

## 支える子どもたち

第二言語である日本語の習得は、外国語を母語として育ってきた子どもたちにとって、大変な努力を必要とします。日本語の習得が進み友だちに意志や気持ちを伝えることができるようになった喜びは意欲を高めますが、学習言語や漢字などの難しさのため、意欲を失ってしまうこともあります。

子どもたちがそのような困難を乗り越え、自分の力を伸ばしていこうとするには、保護者や教師による支えと共に、友だちの支えが大きな力をもたらします。

### <実践例>

C、D は、それぞれブラジル・ボリビア国籍の子どもである。共に日本で生まれ、日常会話は特に難しい内容でなければ理解できる。しかし、学習言語の習得が思うように進まず、語彙の少なさや助詞の使い方のまちがいなどのため、正確な文を書くことが難しい。また、漢字や基礎計算も十分に定着しておらず、毎日繰り返し練習を行っている。

取り出しの学習では、根気強く学習する態度の育成に力を注ぎ、小ステップの目標を設定し、達成感を味わわせ意欲を高めるようにしているが、本人の思いに反して習得が進まないとき、悔し涙を流したり、もうやりたくないという態度を見せたりすることもある。

そこで、彼らの日々の努力をクラスの友だちに知ってもらい、彼らの抱える課題について理解してほしいと願い、クラス担任と相談の上、以下の授業を行った。

道徳	早く教室に帰ってきてね
本時のねらい ○ クラスの友だちが C、D の取り出し学習の様子を知り、彼らの課題について理解する。 ○ クラスの友だちの理解により、C、D が学習意欲を高める。	
学習活動	指導上の留意点
1. クラスの友だちが、C、D の学習の様子を見学する。 2. ポルトガル語の文を読む。 ・ 1回目は、ポルトガル語のみ見せる。 「En algum lugar dentro deste enorme mar vive felizes os irmãos do pequeno peixe.」 ・ 2回目は、ルビふりのものを見せる。 ・ 次に単語の意味を伝え、文を日本語に直す。 3. 取り出し学習で使っている教材や学習を終えたプリントを紹介する。 4. 取り出し学習室での方針を伝える。 5. C、D の学習について質問をする。 6. 思ったこと、気づいたことを発表する。	・ 普段の学習内容や C、D の様子をつかませる。 ・ 何もわからない文でも、ルビをふることによって、ポルトガル語が読めることに気づかせる。 ・ それぞれの単語の意味を伝え、ポルトガル語の文が、今学習しているスイミーのはじめの文「広い海のどこかに、小さな魚の兄弟たちが、楽しくらしていた。」であることに気づかせ、意味がなかったときのうれしさを味わわせる。 ・ 上記の経験と取り出し学習をしているクラスの友だちがもっているルビふり教科書を対比し、ルビふり教科書が彼らにとって大切なものであることに気づかせる。 ・ 意味がわかりやすいように絵を使ったり、形をとりやすいようになぞりを取り入れたりしていることに気づかせる。 ・ 辞書ほどの厚さの学習を終えたプリントの束を見せ、外国につながる子どもが日本語を習得するには、日本人の何倍もの練習が必要であることに気づかせる。 ・ 取り出し学習室は、外国につながる子どもにとってほっとできる場所ではあるが、ここを居場所だと思わないように教師は厳しさをもって接していること、困難にぶつかったときに C、D が悔し涙を流していること、クラスでの語りかけと応援が彼らの日本語の力を高めることなどを伝える。